

| | | |
|---|------------|-----|
| 科目名称： | 油画・日本画演習 I | |
| 担当者名： | 本山二郎・今村文男 | |
| 区分 | 授業形態 | 単位数 |
| 専門教育科目 | 演習 | 8 |
| 授業の目的・テーマ | | |
| 洋の東西を問わず絵画芸術の伝統の中から、現代を表現するにふさわしい技法を実践的に学ぶ I。身近なモチーフを描きながら、様々な画材にも親しみ、描写力、構成力、発想力を養います。絵画として油画、日本画に共通するものや、空間の捉え方・媒材の違い・表現法の違いを学び、学生個々の持ち味に応じた作品作りの基礎を確立します。 | | |
| 授業の達成目標・到達目標 | | |
| 油画と日本画の専門描画用具から専攻する表現方向を選択し、それぞれに扱い方と表現方法を理解して基礎的な技術の修得を目標とします。また、自己の表現探求を試み、積極的な制作活動を行うことを目標とします。授業は油画・日本画それぞれの実習室で行い、各課題探求としてのエスキース（下絵）の制作、使用画材の研究、表現の探求の度合いを成果物（作品・資料）によって習熟度と到達度を確認します。 | | |

| 美術学科 | ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | 重点項目 |
|-------|--|------|
| DP(1) | 建学の精神と設立の理念を基に、主に基礎教育科目により、基礎知識を修め幅広い教養を身につけ、多様な文化や考えに対応できる。 | |
| DP(2) | 主に専門科目により、美術に関する理解を深め豊かな表現力を身につけ、社会の一員として貢献できる実践力を身につけている。 | ○ |
| DP(3) | 多様な社会に対応できるように、自己表現を深化させながらも他者の意見を尊重し、様々な表現を受け入れる豊かな人間性をもっている。 | |
| DP(4) | 様々な課題に取り組み、応用力と創造力を身につけて、その中から自己の個性を磨き表現できる。 | |

| 評価方法／ディプロマポリシー | 定期試験 | クイズ 小テスト | 提出課題 (レポート含む) | ループリック | 合計 |
|----------------|------|-------------|------------------|--------|-----|
| 美術DP(1) | | | | | 0 |
| 美術DP(2) | | | 80 | 20 | 100 |
| 美術DP(3) | | | | | 0 |
| 美術DP(4) | | | | | 0 |
| | | | | | 100 |

| 実務経験のある教員の担当 | 担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載） | |
|--------------|--------------------------|--------------|
| あり | 《内容 1》 今村文男：日本画作家活動 | 《経験年数 1》 43年 |
| | 《内容 2》 本山二郎：油画作家活動 | 《経験年数 2》 20年 |
| | 《内容 3》 本山二郎：高校美術教諭 | 《経験年数 3》 13年 |
| | 《内容 4》 | 《経験年数 4》 |

| 評価ルーブリック | すばらしい | とてもよい | よい | 要努力 |
|----------|------------------------------|------------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 授業への参加 | 課題の内容を理解して積極的に研究活動に取り組む | 課題の内容を理解して興味を持って取り組む | 課題の内容を理解できるように努力する | 課題への理解と興味が低く、意欲的な取り組みが不足 |
| 表現方法の熟達 | 画材の特性を理解し、表現方法に見合った使い方を工夫できる | 画材の特性と適切な表現方法を理解し、使い方に工夫を試みる | 画材の特性と表現の方法に理解を深める | 画材への理解が低く、表現に活用する方法への工夫の不足 |
| 研究する姿勢 | 自己の興味を表現に昇華する方法を模索し、積極的に制作する | 自己の興味に気づき、制作として表現できるように工夫する | 自己の興味を制作に表現できる方法を模索する | 制作として自己の興味を表現する方法を探究出来ていない |
| 作品の完成度 | 画材の特性を駆使して高い表現技術で自己の課題を表現する | 画材に習熟し表現技術が秀で、自己の課題探究が表現される | 画材特性を理解し、自己の表現方法への試みが表現される | 画材理解と自己の表現探究が不足し、制作が迷走する |

| 授業の内容・計画 | 事前事後学修の内容 | 事前事後学修時間(分) |
|---|------------------------------------|-------------|
| 第1週 外部機関と連携した課題解決型学習 | 「千代女」の人物像や俳句が作られた時代背景、俳句についても調べておく | 40分 |
| 第2週 油画選択者 : 石膏デッサン①/人物クッキー (グループワーク) 日本画選択者 : 制作用スケッチ、取材の方法、下図制作 | 制作のポイント理解し、画材の扱いに習熟するよう練習を重ねる | 300分 |
| 第3週 油画選択者 : 石膏デッサン②/人物クッキー (グループワーク) 日本画選択者 : 日本画制作実習 (F30号)①日創展 | 制作のポイント理解し、画材の扱いに習熟するよう練習を重ねる | 300分 |
| 第4週 油画選択者 : カラーチャート、マチエール研究 日本画選択者 : 日本画制作実習 (F30号)②日創展 | 制作のポイント理解し、画材の扱いに習熟するよう練習を重ねる | 300分 |
| 第5週 油画選択者 : 自主課題制作実習 (60号)① 日本画選択者 : 日本画制作実習 (F30号)③日創展 | 制作のポイント理解し、画材の扱いに習熟するよう練習を重ねる | 300分 |
| 第6週 油画選択者 : 美術モデル実習①/クッキー (グループワーク) 日本画選択者 : 制作用スケッチ、取材の方法、下図制作 | 制作のポイント理解し、画材の扱いに習熟するよう練習を重ねる | 300分 |
| 第7週 油画選択者 : 美術モデル実習②/クッキー (グループワーク) 日本画選択者 : 日本画制作実習 (50号)①日創展 | 制作のポイント理解し、画材の扱いに習熟するよう練習を重ねる | 300分 |
| 第8週 油画選択者 : 美術モデル実習③/クッキー (グループワーク) 日本画選択者 : 日本画制作実習 (50号)②日創展 | 制作のポイント理解し、画材の扱いに習熟するよう練習を重ねる | 300分 |
| 第9週 油画選択者 : 美術モデル実習④/クッキー (グループワーク) 日本画選択者 : 日本画制作実習 (50号)③日創展 | 制作のポイント理解し、画材の扱いに習熟するよう練習を重ねる | 300分 |
| 第10週 油画選択者 : 静物デッサン実習/クッキー (グループワーク) 日本画選択者 : 日本画制作実習 (50号)③日創展 | 制作のポイント理解し、画材の扱いに習熟するよう練習を重ねる | 300分 |
| 第11週 油画選択者 : 静物モチーフ油彩実習 (20号)①/クッキー 日本画選択者 : 日本画制作実習 (50号)③日創展 | 制作のポイント理解し、画材の扱いに習熟するよう練習を重ねる | 300分 |
| 第12週 油画選択者 : 静物モチーフ油彩実習 (20号)②/クッキー 日本画選択者 : 日創展鑑賞 | 制作のポイント理解し、画材の扱いに習熟するよう練習を重ねる | 300分 |
| 第13週 油画選択者 : 静物モチーフ油彩実習 (20号)③/クッキー 日本画選択者 : 絹本画制作の下図制作準備 | 制作のポイント理解し、画材の扱いに習熟するよう練習を重ねる | 300分 |
| 第14週 油画選択者 : 自主課題制作実習 (60号)②現美 日本画選択者 : 絹本画制作実習① | 制作のポイント理解し、画材の扱いに習熟するよう練習を重ねる | 300分 |
| 第15週 油画選択者 : 自主課題制作実習 (60号)③現美 日本画選択者 : 絹本画制作実習② | 制作のポイント理解し、画材の扱いに習熟するよう練習を重ねる | 300分 |

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、制作段階での課題を整理し、次回までの制作プロセスを組み立ててまとめること。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
全課題提出を原則とし、提出課題の良否およびオーディション審査[11月・1月]において評価する。
(80%程度)、課題への積極的な制作活動、問題解決への取り組みを評価として勘案する。(20%)

課題に対するフィードバック

学習成果は『学習評価シート』によってフィードバックする。また、展覧会やコンクールなどへの作品発表活動に参加し、制作の意義と到達度を自ら実感する機会を設ける。

教科書・参考書

教科書は使用しない。必要な資料等は、授業の中で随時紹介する。